

授業概要

保育内容の学習は、保育所・幼稚園・認定こども園で保育者が行なう子どもの健やかな成長に向けた養護と教育が一体化した活動のことであったが、「保育内容指導法」は、これら保育内容の基礎を習得した学生に求められる「指導法」のことを言う。したがって、多くの学生にとっては、この指導法を保育園や幼稚園での「実習」に活かせるかどうか、最初の試練となる。この授業では、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」など公的基準をもとに保育内容指導の基本についてわかりやすく学習し、授業内容が「幼・保」の現場で活かせるような内容にしたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保育の意義・目的
第 3 回	保育内容とその指導法の変遷（明治期）
第 4 回	保育内容とその指導法の変遷（大正期・昭和戦前）
第 5 回	保育内容とその指導法の変遷（昭和戦後・現代）
第 6 回	保育所保育指針と幼稚園教育要領
第 7 回	保育計画と旧保育課程
第 8 回	幼稚園の教育課程
第 9 回	保育園の保育計画
第 10 回	子育て支援
第 11 回	保育の評価と記録
第 12 回	設定保育の基礎・基本
第 13 回	保育指導案作成（部分実習指導案）
第 14 回	指導案の作成（前日実習指導案）
第 15 回	学習のまとめ

到達目標

1. 保育の目的、意義、思想等をふまえて「保育内容の具体的な指導法」を理解している（知識・技能）。
2. 保育の課題をふまえた指導法に関する小論文を書いたり口頭で発表したりしている（思考・判断・表現）。
3. 保育内容の指導法に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとしている（主体的学習態度）。

履修上の注意

単位修得のためには、最低 10 回の出席（無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の参考書も活用してほしい。
『保育内容指導法』監修（名須川知子・大方美香）、編著（谷村宏子）・ミネルヴァ書房・2420 円＋税